

話すこと 指導のポイント (その4)

～即興で伝え合う活動への挑戦～

スキット作成は意欲をもって取り組む活動ですが…

本HP「[話すこと 指導のポイント \(その3\)](#)」で、スキットを作成することについて、「書くことが目的ではないので、『話すこと』を意識させるようにしましょう。**最終的には、即興で行う**ことを念頭に置きたいところです。」と述べました。スキット作成は、生徒がペアまたはグループで互いに考えを出し合ったり、辞書を活用して新しい表現を見つけたりと意欲的に取り組む活動です。

しかし、作成した英文を覚えて（あるいは見ながら）発表する活動で終わらせるだけでは「話すこと」の力を伸ばすには不十分です。

スキット作成に、「即興」の視点を取り入れるポイント

- 準備させすぎない
- 「その場」で思考・判断・表現させる
- 正確さではなく、伝えたい内容を重視する

(文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室 平木裕教科調査官 講演資料より)

【実際の活動例】

- 1 スキットを作成する時間を設定
※ 設定したら、その時間を厳守！
- 2 練習の時間を設定
※ 覚えることが目的ではないので、短くてもよい。
- 3 発表する時間を設定
※ 学年が上がるにつれて長くする。
※ 発表時間内は会話を継続させる。
- 4 振り返り
※ ペアや全体で、良かった点や会話を継続させるために必要だった点を振り返らせる。

これは、あくまでも一例です。学級の規模や生徒の実態はもちろん、単元や一単位時間の目標、言語材料の内容等に応じて行ってください。

これまでの授業を一步進めるために、思い切って生徒から「補助輪」を外してみることも大切です。